

所属高等学校	加治木高等学校
教 科・氏 名	地歴公民 濱田 雄志

1 視察した高校名とその概要

(1) 神戸大学附属中等教育学校

ユネスコスクール認定校、SGH指定校である。神戸大学の附属学校再編計画により平成21(2009)年に設立された中等教育学校であり、教育研究開発を目的とする国立大学附属学校で、6年一貫教育、男女共学という特色がある。グローバル人材育成に向けて、地理歴史科を再編成し「地理総合」「歴史総合」を設置し、中高一貫教育課程に位置付けながら、その学習内容と方法、評価について文部科学省の指定を受け研究開発を行っている。

(2) 大阪医科薬科大学 高槻中学校・高等学校

1 学年270名 6 クラスの完全中高一貫校である。2017年より男女共学化。SSH, SGH指定校。中3時に、GL, GS, GAの3つのコースから自分の希望に合ったコースを選択し学んでいく。校内にAL推進チームを設置し、京都大学教授をアドバイザーとして招き、授業の研究・改善を行っている。大学付属校の特色を生かし、積極的に外部(企業、大学、海外校など)との交流を行っている。

2 視察時期

9/25(水) 神戸大学附属中等教育学校

9/26(木) 大阪医科薬科大学 高槻中学校・高等学校

3 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて参考になった点（箇条書きで可）

(1) 神戸大学附属中等教育学校

- ・ 「地理総合」の到達目標（Ⅰ 社会的事象の地理的な思考力・判断力・表現力 Ⅱ 地理的な態度と価値観 Ⅲ 地理的技能 Ⅳ 地理に関する基礎的知識・概念）を念頭に置いた単元の設定、発問や問い、テストの作問を心がけることで、何をどのように学ばせたいのかが明確になっていた。また観点別評価もしやすく、教員の負担にも軽減にも繋がっていた。
- ・ ワークシートを作成し、授業を構築していた。問いによってはあえて答えを言わず、良い解答を廊下に掲示したり、テストに出した後に解説したりと、生徒が考える時間を長く持つ工夫がなされていた。
- ・ ホワイトボードをうまく活用していた。
- ・ 個人思考→グループ学習→個人思考というローテーションで考えさせることで、一人一人が自分の考えを持ちながら、視野を広げることができていた。また、どのような意見の変化が見られたのかも確認することが出来ていた。

(2) 大阪医科薬科大学 高槻中学校・高等学校

- ・ 「ディープアクティブラーニング」の考え方をもとに、生徒が学習活動をおこなえるような授業研究が行なわれていた。
- ・ 全教室に白板、プロジェクターが設置されていた。また生徒は個々にSurfaceがありALが行いやすい環境が整備されていた。
- ・ 次の3つを授業デザインのポイントとし、授業が構成されていた。
 - ① 授業や単元の「目標」を生徒に示し共有する
 - ② 授業に「本質的な問い」「核となる課題」を用意する
 - ③ 生徒が学びを自覚するための「振り返り」を行う
- ・ 論証モデル・三角ロジックを用い、論証の妥当性を吟味できる力、論理的思考力の育成を行っていた。

4 ALの視点からの授業改善に向けて授業に取り入れたいことなど（箇条書きで可）

- ・ 個人思考→グループ学習→個人思考のローテーションは生徒が自分の考えを整理しつつ、視野が広がるため、取り入れたいと思った。
- ・ 海外の教科書を使用した授業も行われていたが、地理分野において各国の歴史、背景、世界的立場を知るうえで非常に効果的だと感じた。
- ・ 3つの授業デザインのポイントは、普段から心掛けていきたい。
- ・ 生徒の考えを深めるために、論証モデル・三角ロジックは適宜取り入れていきたいと思った。